

～私たちは健診の精度を高める努力をし続けています～



医療法人 知音会

四條烏丸クリニック

人間ドック・健診・画像診断

日本総合健診医学会認定
優良総合健診施設

専門医による二重、三重のチェック体制を確立しています。

検査内容が同じでも、その結果に対する診断方法により、精度には大きな違いが生まれます。私たちは、最新の検査機器から得られた結果に対する診断精度をさらに高めるため、すべての X 線検査(胸部 X 線検査・胃透視検査・胸部 CT 検査・腹部 CT 検査・頭部 CT 検査・マンモグラフィ)において、放射線科専門医(マンモグラフィは検診マンモグラフィ読影認定医)による二重読影体制を整えています。二重読影でも判断に迷う症例については、さらに別の放射線科専門医が三重読影をすることも珍しくありません。

また、心電図については循環器内科専門医、眼底検査については眼科専門医がそれぞれ読影しております。

最終的に、人間ドック・健診専門医である担当医が、すべての結果を確認しますので、結果表作成までには、最低でも二重のチェックが、場合により、三重、四重のチェックがなされる体制を確立しております。

腹部エコーで見えるものは全て(男性 9 臓器・女性 10 臓器)確認しています。

一口に腹部エコーといっても、肝臓・胆嚢・腎臓の 3 臓器しか見ていない場合と、膵臓・脾臓などの上腹部臓器に加え、腹部大動脈や下腹部(膀胱・子宮・卵巣・前立腺・回盲部)まで見ている場合とでは、検査内容に雲泥の差があります。

私たちは、苦痛が少なく、放射線を使用しないエコー検査を重視し、「エコーで見える臓器はすべて確認する」をモットーに健診にあたっています。もちろんエコーには見える限界もあり、たとえば、下腹部(子宮・卵巣・前立腺など)のエコーは、膀胱に尿が溜まっていないと見にくくなります。また、腸のガスが多い場合や肥満のかたでは見えない範囲もあります。ただ、せっかく腹部エコー検査を受けられる方に、見る臓器数を制限するようなことは、私たちはしたくありません。多くの臓器を観察するため、エコー検査に多少時間がかかるかもしれませんが、苦痛はあまりありませんので、ご安心ください。

内視鏡(胃カメラ)機器には NBI(Narrow Band Imaging:狭帯域光観察)を搭載しています。

NBIは特殊な光を使って粘膜表面を観察する、内視鏡の新技术で、がんの早期発見につながる手法として注目されています。NBI が搭載されていない機器に比べると、とくに食道の観察などがしやすく、健診での早期がん発見に有用と考えられます。コスト面から、健診機関で採用している施設はわずかですが、胃のみならず食道の診断精度も高めるためには、NBI 搭載機器は必要と考えています。

日本総合健診医学会による、年 4 回の精度管理調査を受けています。

当クリニックは、日本総合健診医学会認定優良総合健診施設です。年に 4 回実施される、日本総合健診医学会による精度管理調査は、各種血液検査・尿検査・便潜血検査・心電図診断・胸部 X 線検査診断など、毎回異なる検査の課題に対して、当クリニックで実施した読影結果や外部に委託している検査機関による検査結果を学会に送付し、それに対して学会から成績報告書が送られてくるというものです。もちろん毎回優良という成績報告書をいただいておりますが、当クリニックでは、このように外部調査を定期的にも受けることでも、検査精度を高める努力をしています。